



子どもたちの意見発表に大きな拍手！



坂田さんから力強く「交流から広がる人権意識」を語っていただきました

人を人として大切にする

1月23日に保健福祉センターで、人権・同和教育研究大会が開かれました。

小学生3人からは「人を人として大切にする」「素晴らしい出会いから」「心に残った人権学習」と題して、中学生からは「交流を通して」、保護者からは「親として人として」というテーマで意見発表していただき、それぞれの発表に対して、およそ170人の参加者から大きな拍手がありました。

講演では、講師の坂田かおりさんから、米子市識字・日本語教室と名和町識字学級のつながりなども交えてお話していただきました。

シンポジウムは、「同和問題啓発活動の推進」「保育所・学校における人権・同和教育」「だれもが暮らしやすいまちづくり」と3つのテーマに分かれて持たれました。その中では、小地域懇談会の展開や、学習の成果をどう育てどう発展させるか、障害のある人の人権尊重に向けた取り組みなどが熱心に語られました。

シリーズ 人権・じんけん(最終回)

この地対協の意見具申の中で、特に「同和問題を人権問題の重要な柱として捉え」の部分で、大事にして読む必要があると述べています。

「日本における人権教育は、同和教育の中から生まれた」という認識を今後も共有したいものです。(第56回全国人権・同和教育研究大会 大会総括より)

「人権教育は、同和教育の中から生まれた」

平成7年(1995)から平成16年(2004)までは「人権教育のための国連10年」でした。国内では、平成8年(1996)の地域改善対策協議会(地対協)の意見具申が、「これまでの同和教育や啓発活動の中で積み上げられてきた成果とこれまでの手法への評価を踏まえ、すべての人の基本的な人権を尊重していくための人権教育、人権啓発として発展的に再構築すべきと考えられる」と述べたこととあわせ、「人権教育」ということばを広め定着させてきました。

教育への発展的な再構築を提言した地対協の意見具申は、「同和問題の早期解決を図る」ための具申でした。この意見具申が導きの糸となって、平成8年、日本で初めて「人権」の2文字を冠した「人権擁護施策推進法」が施行されました。

さらに平成12年(2000)に制定された「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」の第1条では、「日本国憲法とは順序を変えて、「社会的身分、門地、人種、信条又は性別」と社会的身分、門地を真っ先に掲げることによって、この法律が部落差別をなくすための法律であることを宣言しています。

また平成14年(2002)に、閣議決定された「人権教育・啓発に関する基本計画」では、「学校教育及び社会教育を通じて同和問題の解決に向けた取り組みを推進していく」ことが明らかにされています。

イキイキネットワーク 話題を追って

災害の無い1年に

朝から大雪となった1月9日、「名和町消防団出初め式」が農業者トレーニングセンターでおこなわれました。

昨年は町内でも火災が続き、台風などの自然災害も多かったことから、改めて消防団の存在意義の重要性と町民の防災意識高揚の必要性を確認しました。

式典で表彰状の伝達を受けた団員のみなさんは下記のとおりです。また、引き続き、分列行進と名和川での一斉放水もおこなわれました。



消防団では、新しい仲間を募集しています。あなたも地域の安全のためにご協力ください

表彰をうけたみなさん (敬称略)

消防庁長官表彰 功労章 団長 薄田敏夫	(鳥取県消防協会長表彰) 勤続章 班長 湯谷和忠
日本消防協会長表彰 勤続章 分団長 金谷光男	班長 大黒辰信
副分団長 逢坂恭一	功績章 班長 坂本徳司
鳥取県消防協会長表彰 勤続章 部長 松本厚爾	鳥取県西部消防協会長表彰 功績章 班長 綿谷正巳
部長 柘田幸男	勤続章 団員 出口正則
部長 松岡正巳	名和町消防団長表彰 皆勤賞 団員 薄田健一

元旦マラソン



「1年の計は元旦にあり」マラソンと同じく、今年1年も元気いっぱい走りぬけますように

今年も元気に「走り初め」

新しい年が明けたばかりの1月1日、毎年恒例の元旦マラソンがおこなわれました。

まずは参加者全員で名和神社に初詣。それぞれの思いで手をあわせ、いよいよ走り初めです。

年末から荒れ模様で、厳しい寒さの中のスタートとなりましたが、参加した30人は元気よく走りぬきました。